



【KSCC-1302】

胃癌肝限局性転移の外科治療に関する後ろ向きコホート研究

・はじめに

胃癌肝転移に関しては、化学療法の臨床試験はおろか、予後に関する多施設の観察研究さえ皆無です。したがって、単発の異時性肝転移、同時性肝転移、腹膜播種を伴う肝転移、腹水細胞診陽性の肝転移など、それぞれの肝転移の治療方針に定まった考え方はありません。また、胃癌の肝限局性転移症例に対して外科治療を行った場合の予後について、大規模に調査した研究が見られない理由として、その症例数の少なさが挙げられます。今後新たな症例を集積した場合、非常に長い研究期間が必要となることが予測されるため、これまでの症例について観察研究を計画いたしました。

・対象

済生会福岡総合病院外科において、胃癌肝限局性転移と診断され、以下の基準を満たす方を対象にしています。

- 1) 原発巣・肝転移巣が組織学的に胃腺がんであると確認された症例
- 2) 同時性、異時性関わらずに臨床診断で肝限局性転移と診断された症例
- 3) 2000年1月1日～2010年3月31日に肝転移に対し外科治療(体外・術中MCTおよびRFAを含む)が行われた症例
- 4) 胃癌原発巣に対して切除術が行われた症例(時期不問)

対象者となることを希望されない方は、末尾の連絡先までご連絡下さい。

・研究内容

多施設による胃癌肝限局性転移の患者さんのこれまでの症例の観察研究です。

本研究の第一の目的は、胃癌の肝限局性転移の外科治療の有用性を明らかにすることであり、肝転移の状態や胃原発巣の臨床病理学的因子も検討して、予後因子となり得るものを明らかにすることを目的としています。

すでに実施された診療についてのデータを調べますので、採血などの新たなご負担はありません。

当研究で診療データを使用することを希望されない場合は、下記連絡先までご連絡下さい。

・個人情報の管理について

この研究で得られた診療情報は、個人情報の管理が安全に図られるよう十分に配慮し、利用目的に必要な無い実名を収集したり、個人が特定される可能性がある情報を公表したりは致しません。

・研究期間

本研究は、2013年3月から2014年2月までとなります。

・医学上の貢献

これらの予後を検討していくことは、今後の臨床試験の対象を考える上で、極めて有用な情報となると考えます。

・研究機関

本研究は、九州がん臨床研究共同機構(ACCT-K:Alliance of Cancer Clinical Trials in Kyushu)に属する九州消化器癌化学療法研究会(KSCC: Kyushu Study group of Clinical Cancer)が実施します。

【研究に関する問合せ先】

済生会福岡総合病院 外科

研究責任医師:副院長 松浦 弘

TEL:092-771-8151

KSCC 研究事務局

江見 泰徳 九州大学大学院 消化器・総合外科

沖 英次 九州大学大学院 消化器・総合外科

〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

TEL:092-631-2920

FAX:092-631-2929

登録・データセンター

一般社団法人 九州臨床研究支援センター(CReS 九州)内

E-mail : info2@cres-kyushu.or.jp

〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1 九州大学病院内

TEL:092-631-2920 FAX:092-631-2929